

みんな“学び合っているかい！”

石井英真先生をお招きし、今年度最終回となる校内授業研修会を行いました。今回の授業は1年生の保健体育。めあては『人を惹きつけるダンスを表現しよう』です。各グループに分かれ試行錯誤しながら課題に取り組みました。また静岡県浜松市開成中学校からも視察にお越しいただきました。

01 1年生の学び

今日も「らしさ」で、学び合います

1年生はどの授業でも自分たちの意見を出し合うことのできる“つながり”が醸成されています。本時も「こうしてみよう」「どうするか分からんし教えて」などの言葉が飛び交います。また、ある生徒は言葉を発しなくてもじっと仲間の会話を聞いています。その後、仲間のダンスを見て自らリズムを刻み始めます。そして、授業の最後には仲間とダンスで表現し始めました。きっとそこに彼女の学びがあったのだと思います。



自らの学びを語る 02



学びの深さを感じとり、言語化できる

そんな1年生は先日、先輩（3年生）の理科の授業を参観していました。そこで改めて先輩の学びの深さを肌で感じました。自分たちも2年後あんな姿になっているのだろうか。火がついた1年生はさらに自分たちの学びに前向きになります。この日は授業後に生徒質疑の場を設け、参観者の先生たちと学びについて語り合いました。その中で「私たちは自分たちで授業を作っている！」と頼もしい言葉を聞くことができました。

03 夢現スキームの目指す先

「らしさ」を超えるために、これからの学びとは

目の前にいる生徒たちとどんな学びができるのか？「ワクワク」や「もっともっと」が生まれる授業とは？教科の本質に向き合い『ほんまもん』に出会い学びに没頭すること。そして、これからはさらに自ら問いを立て、課題を追究すること。つまり教科の枠を超えた『探究学習』の充実こそが、子どもたち「らしさ」を超えた『学び手』としての成長につながると思っています。



石井先生のお話から 04

生徒の“育ちの舞台”はどこにありますか

我々教師は生徒の育ちをどこで感じますか？そうです！育ちの舞台は授業です。手ごたえは授業の中で感じるのです。そのための授業づくりです。授業のあり方が変われば学校が変わる。そんな授業を、学校を、子どもたちと作っていきたくと改めて思いました。そこに“学び”はあるのかい？そんなことを考えながら今年度の授業研修会を終えることができました。

